

政策整理番号 23

評価シート(B)

対象年度	H17	作成部課室	教育庁生涯学習課	関係部課室	
------	-----	-------	----------	-------	--

政策番号	3 - 7 - 2	政策名	生涯にわたって学び楽しめる環境の充実
------	-----------	-----	--------------------

施策番号	1	施策名	多様なニーズに対応した学習機会の提供
------	---	-----	--------------------

A - 3 - 1 施策の有効性:規則 § 6 3号

有効	概ね有効	課題有
----	------	-----

【政策評価指標達成状況から】課題有  
 指標名:みやぎ県民大学受講者数(累計) 達成度 A  
 ・(達成状況の背景)受講者数は単年度で2,731人,累計で49,288人で目標値は達成。県民の関心も高く,問い合わせも非常に多い。  
 ・(達成度から見た有効性)目標値を達成しており,本施策の有効性は認められる。  
 指標名:公立図書館における図書資料貸出数(県民一人あたり) 達成度 B  
 ・(達成状況の背景)町村に図書館が3館新設されたが,未だ図書館のない町村は多い。  
 ・(達成度から見た有効性)公立図書館のネットワーク化の進展もあり,図書資料貸出数は前年度より増加したが,目標値は達成できなかった。なお,目標値はチャレンジの目標であり,達成するには,図書館数の増加が必要であり,必ずしも本施策が有効ではないということではない。  
 【県民満足度(政策)の推移から】概ね有効  
 ・満足度は50点であるが,60点以上の割合が50%近くあり,概ね有効といえる。  
 【社会経済情勢を示すデータの推移から】有効  
 ・少子・高齢化が進展し,高齢者人口が増大する中,豊かで生きがいのある生活と個性と活力に満ちた地域づくりを実現するために,また文字活字文化振興法の施行もあり,今後,生涯学習はますます重要となる。

【総括】  
 ・満足度は「やや不満」を示す50点であったものの,評価指標の数値については,前回と同程度以上であった。このことは,県民が生涯学習施策のこれまで以上の充実・拡大を求めていることを示すものである。  
 ・少子高齢化の進展中,平成17年度には文字活字文化振興法も施行され,今後,生涯学習の果たすべき役割はますます大きくなっていくことが予想される。

施策を構成する事業の事業番号と種別

事業番号	種別	事業名	事業番号	種別	事業名
1	主	みやぎ県民大学推進事業	6		
2	主	市町村図書館支援事業	7		
3			8		
4			9		
5			10		

主:宮城県総合計画第 期実施計画に掲載されている「主要事業」 重:重点事業のうち主要事業以外の事業

B - 1 施策実現にむけた県関与の適切性と事業群設定の妥当性:規則 § 6 1号,4号

適切	概ね適切	課題有
----	------	-----

【国,市町村,民間団体との役割分担】概ね適切  
 ・「みやぎ県民大学事業」においては,「出前講座」をはじめ,市町村と共催して行う講座を増やすとともに,NPO法人等の民間法人に講座を委託する「自主企画講座」を充実させるなど,連携・協力を推進する取り組みに努めている。  
 【施策目的を踏まえた事業か】適切  
 ・それぞれ,学習機会の提供及び生涯学習の環境整備という施策目的を実現するために必要な事業である。  
 【事業間で重複や矛盾がないか】適切  
 ・各事業とも目的や対象者は適正に設定されており,重複や矛盾はない。  
 【社会経済情勢に適応した事業か】適切  
 ・今後さらに進展していく少子高齢化,また価値観やライフスタイルの多様化,NPO等住民活動団体の社会的認知度の高まりと活動の活発化などの社会経済情勢に,まさに適応した事業である。  
 【施策重視度と満足度のかい離が大きいか】(事業の必要性)適切  
 ・施策重視度70点,満足度50点で,かい離度については,20と大きかった。これは,当事業の必要性を示すものである。

【総括】  
 ・市町村やNPO法人等との連携の推進については,これまで以上に取り組んでいかなければならないが,施策実現にむけての県関与についてはいって適切であり,事業の設定も妥当であると判断する。

施策番号	1	施策名	多様なニーズに対応した学習機会の提供
------	---	-----	--------------------

**B - 2 事業群の有効性:規則 § 6 2号**

有効	概ね有効	課題有
----	------	-----

<p>【施策満足度から】課題有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施策満足度は50点であったが、60点以上の回答者の割合は50%近くあり、事業自体が有効ではなかったということではない。ただ、みやぎ県民大学講座のより一層の拡充や町村への図書館設置を求める県民の意見を反映した結果と思われる。</li> </ul> <p>【政策評価指標達成状況から】課題有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みやぎ県民大学受講者数」(累計)については、49,288人となり、目標値(49,000人)を達成している。</li> <li>・「公立図書館における図書館資料貸出数」については、3.7冊で目標値(3.8冊)を達成出来なかった。このことは、目標がチャレンジの目標値であり、公立図書館数が増えないと実現がかなり難しい目標としたため。(16年度は3館の図書館が新設されたが、目標値には到達しなかった。)なお、市町村図書館支援事業による公立図書館間のネットワーク化は着実に進展しており、図書資料貸出数の増加の一助にはなっている。</li> </ul> <p>【社会経済情勢を示すデータの推移から】有効</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化が進むことにより、子どもの数は減少するが、高齢者の数は増大していく。このことは、県民大学の主たる受講者であり、図書館の主たる利用者である成人が増えていくことを示している。</li> </ul> <p>【業績指標推移から】有効</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効率性指標は順調に推移しており、事業については有効である。</li> </ul> <p>【成果指標推移から】有効</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内公立図書館における個人の図書資料貸出総数は8,643千冊となり、前年度より266千冊増加した。</li> </ul> <p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施策満足度については50点と「やや不満」となり、また政策評価指標である「公立図書館における図書館資料貸出数」の目標値も達成出来なかったが、個々の事業の業績指標や成果指標の数値は順調に推移しており、事業については概ね有効と認められる。</li> </ul>
---

**B - 3 事業群の効率性:規則 § 6 3号**

効率的	概ね効率的	課題有
-----	-------	-----

<p>【政策評価指標達成度 業績指標・成果指標】効率的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県民大学受講者数については、若干数値的には下がっているが、達成度はAを維持している。これは、達成度については累計であり、これまで大幅に目標値を超えていた分の蓄積に負うところが大きいからであり、相関性はあると認められる。また、図書貸出数については増加しているものの、達成度についてはBである。これは、目標値がチャレンジの目標値で高く設定されているからであり、相関性については認められる。</li> </ul> <p>【社会経済情勢データ 業績指標・成果指標】課題有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化の進展と指標数値の増減については、「みやぎ県民大学」の募集定員等の制限もあり、この結果だけでは、相関性の有無は判断できない。</li> </ul> <p>【事業費に対する業績指標の割合(効率性指標)が適切か】効率的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みやぎ県民大学推進事業については、事業費は減少しているが、開催回数については増加しており、結果として、効率性指標は高くなっている。また、市町村支援事業については、事業費がほぼ横ばいであるものの、業績指標等の数値は高いことから、効率性指標も高くなっている。以上のことから、事業は効率的に実施されているものと判断できる。</li> </ul> <p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会経済情勢に対して事業が効率的であるかどうか判断するのは難しい。しかしながら、事業費に対する指標数値の推移、つまり効率性指標は年々高くなっていることから、事業は概ね効率的に実施されていると判定できる。</li> </ul>
---

**B 施策評価(総括):規則 § 6**

適切	概ね適切	課題有
----	------	-----

<ul style="list-style-type: none"> <li>・B-1 国や市町村等との連携については検討課題であるが、施策目的のための事業設定は妥当であり、県の関与も適切である。</li> <li>・B-2 各評価指標については、現状維持もしくは向上しており、事業費の推移を勘案すれば、概ね有効であると認められる。</li> <li>・B-3 効率性指標も高くなっており、事業は概ね効率的に行われていると認められる。</li> <li>・以上のことから、当施策については、概ね適切であると判断される。</li> </ul>
--

政策整理番号 23

事業分析カード(業績)

対象年度	H17	作成部課室	教育庁生涯学習課	関係部課室	
------	-----	-------	----------	-------	--

政策番号	3 - 7 - 2	政策名	生涯にわたって学び楽しめる環境の充実		
------	-----------	-----	--------------------	--	--

施策番号	1	施策名	多様なニーズに対応した学習機会の提供		
------	---	-----	--------------------	--	--

活動(事業) / 活動(事業)によりもたらされた結果								
事業番号	事業名 【担当課室名】	H17 事業費 (千円)	事業の対象 (誰・何を対象として、具体的に)	事業の手段(内容) (何をしたのか、具体的に)	業績指標名 (事業の活動量。「事業の手段」に対応)	H15	H16	H17
						事業費(千円)		
						効率性指標 (3.5E-02は $3.5 \times 10^{-2}$ )		
1	みやぎ県民大学推進事業 【生涯学習課】	9,681	一般県民	高校・大学等の教育機関等の協力のもと、各種生涯学習講座を開設する。	みやぎ県民大学講座の開催数	62 11,808 5.3E-03	64 10,276 6.2E-03	70 9,681 7.2E-03
2	市町村図書館支援事業 【生涯学習課】	67,551	市町村図書館	蔵書検索システム等市町村図書館の支援システムのネットワーク化を進めるとともに、市町村図書館職員の研修会を行う。	県図書館から県内市町村立図書館に対する年間協力貸出冊数	18,357 75,095 2.4E-01	21,856 67,551 3.2E-01	
3	[ ]							
4	[ ]							
5	[ ]							
6	[ ]							
7	[ ]							
8	[ ]							
9	[ ]							
10	[ ]							
	[ ]							
	[ ]							
	事業費合計	77,232						



対象年度	H17	作成部課室	教育庁生涯学習課	関係部課室	
------	-----	-------	----------	-------	--

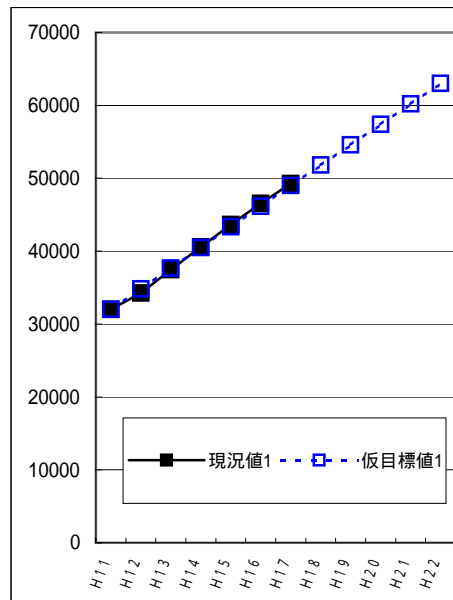
政策番号	3 - 7 - 2	政策名	生涯にわたって学び楽しめる環境の充実
------	-----------	-----	--------------------

施策番号	1	施策名	多様なニーズに対応した学習機会の提供
------	---	-----	--------------------

(1) 政策評価指標の推移

政策評価指標名		単位						
みやぎ県民大学受講者数(累計)		人						
目標値	難易度	H17	49,000	H22	63,000			
評価年	初期値	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
測定年	H11	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
現況値 (達成度判定値)	31,992	31,992	34,242	37,465	40,576	43,665	46,557	49,288
仮目標値	31,992	34,827	37,662	40,497	43,332	46,167	49,000	
達成度	...	B	B	A	A	A	A	

政策評価指標値の推移(グラフ)



難易度: (トレンド型目標 実現が可能), (中間型目標 実現が困難), (チャレンジ型目標 実現がかなり困難)

(2) 指標の選定理由

- ・みやぎ県民大学受講者数の増加は、生涯学習に慣れ親しむ県民が増えることを意味し、生涯学習環境の充実を示す指標として選定した。
- ・職業上必要な知識・技術、また一般的な教養に関する学習機会の提供に対する県民ニーズに応える指標として選定した。
- ・学習成果が県民のキャリア開発やボランティア活動など積極的な社会参加に生かされ、また地域づくりにも反映される指標として選定した。

(3) 施策満足度の推移

年度	H17	参考: 第2~4回の推移	H16	H15	H14			
施策重視度(中央値、点)A	70	施策重視度 A	70	70	80			
施策満足度(中央値、点) B	50	施策満足度 B	60	60	50			
かい離 A-B	20	かい離 A-B	10	10	30			
満足度60点以上の回答者割合(%)	45.1	満足度60点以上の回答者割合	51.2	52.0	50.0			

第5回県民満足度調査は調査票の様式を見直しで実施しました。第2~4回の調査結果は第5回の調査結果と同列に扱うことができないため、参考記載としています。

(4) 政策評価指標の妥当性分析

ア 達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見直し

- 達成度: A
- ・16年度と比較すると、受講者数で161人減少し、2,731人であった。
  - ・予算額が減少する状況にあって、実施方法の見直し、また各高等学校や施設、団体等の協力により、当事業を前年度並に実施できた。
  - ・毎年、当事業への県民からの問い合わせは大変多く、今後も高齢化の進展等により、全県下で生涯学習の機会を提供する当事業の必要性は増していくと思われることから、事業の拡充に努めていきたい。

(5) 政策評価指標の妥当性の検証(総括)

存続

要検討

- [施策の有効性を評価する上で適切な指標か]
- ・都市部だけでなく、広域的に、しかも総合的な学習サービスの提供を行う本事業の実施状況を表す受講者数は、多様なニーズに対応した学習機会の提供を計る指標としてふさわしい。
  - ・県民大学は、地域における生涯学習振興の要となる指導者の養成も行っており、このことは、市町村においても、県に支援を期待している分野である。
  - ・生涯学習の振興という視点から実施している県事業は本事業だけであることから、当指標の設定は妥当である。

対象年度	H17	作成部課室	教育庁生涯学習課	関係部課室	
------	-----	-------	----------	-------	--

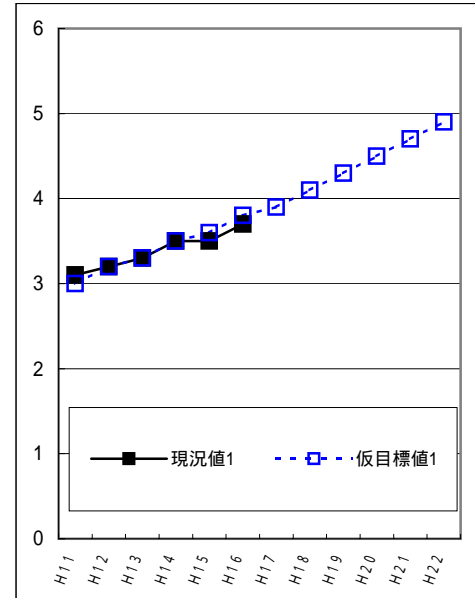
政策番号	3 - 7 - 2	政策名	生涯にわたって学び楽しめる環境の充実
------	-----------	-----	--------------------

施策番号	1	施策名	多様なニーズに対応した学習機会の提供
------	---	-----	--------------------

(1) 政策評価指標の推移

政策評価指標値の推移(グラフ)

政策評価指標名		単位						
公立図書館における図書資料貸出数(県民一人当たり)		冊						
目標値	難易度	H17	3.9	H22	4.9			
評価年	初期値	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
測定年	H10	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
現況値 (達成度判定値)	2.9	2.9	3.1	3.2	3.3	3.5	3.5	3.7
仮目標値			3.0	3.2	3.3	3.5	3.6	3.8
達成度			A	A	A	A	B	B



難易度: (トレンド型目標 実現が可能), (中間型目標 実現が困難), (チャレンジ型目標 実現がかなり困難)

(2) 指標の選定理由

- ・県民の図書館の利用状況や市町村による図書館の設置状況を反映する数値で、生涯学習環境の充実度合いを推し量る指標として選定した。
- ・県民の生涯学習によるキャリア開発や県民の文化的活動の振興度合いを示す指標として選定した。
- ・当該指標の向上は、ボランティア活動などの地域づくりにも結びつくものとして選定した。

(3) 施策満足度の推移

年度	H17	参考: 第2~4回の推移	H16	H15	H14			
施策重視度(中央値、点)A	70	施策重視度 A	70	70	80			
施策満足度(中央値、点) B	50	施策満足度 B	60	60	50			
かい離 A-B	20	かい離 A-B	10	10	30			
満足度60点以上の回答者割合(%)	45.1	満足度60点以上の回答者割合	51.2	52.0	50.0			

第5回県民満足度調査は調査票の様式を見直して実施しました。第2~4回の調査結果は第5回の調査結果と同列に扱うことができないため、参考記載としています。

(4) 政策評価指標の妥当性分析

ア 達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し

達成度: B  
 ・前年度より図書資料貸出数(県民一人当たり)は0.2冊増えたものの、目標値である3.8冊には至らなかった。  
 ・目標値が前年より0.2冊高くなり、達成するには前年より約50万冊貸出冊数が増えなければならず、数館の図書館設置が必須である。16年度は3つの図書館が新設されたものの、目標値達成には至らなかった。  
 ・今後、目標値を達成するのはかなり厳しくなるが、市町村合併や文字活字文化振興法施行の影響、また県図書館による図書館支援等により、図書館が数多く設置されることが予想されるので、目標値は変更しない。

(5) 政策評価指標の妥当性の検証(総括)

存続 要検討

【施策の有効性を評価する上で適切な指標か】  
 ・公立図書館は、地域における住民の学習ニーズに応える生涯学習の中核的施設として、資料や情報の提供等、住民への直接的な学習支援を行う施設である。  
 ・生涯にわたる学習活動を支援し、多様化・高度化する学習ニーズに対応するためには、地域の特性に応じた図書館が必要不可欠である。  
 ・以上のことから、公立図書館の利用度を計る本指標は、県民の多様なニーズに対応した学習機会の提供の度合を計る指標の一つとして適切であると認められる。

# 施策・事業展開シート(C)

政策整理番号 23

対象年度	H17	作成部課室	教育庁生涯学習課	関係部課室	
政策番号	3 - 7 - 2	政策名	生涯にわたって学び楽しめる環境の充実		
施策番号	1	施策名	多様なニーズに対応した学習機会の提供		

## C - 1 評価結果から抽出される課題と対応策

[政策評価] 施策群設定の妥当性, 施策群の有効性  
 ・政策を構成する施策の設定は適切であり, 政策目的を果たすためにも有効であると認められる。このことから, 政策評価指標の目標値を達成するためにも, 引き続き当該施策を重点的に実施していく必要がある。

[施策評価] 事業群設定の妥当性, 事業群の有効性, 効率性  
 ・政策評価指標の数値の推移等から判断し, 事業群設定については適切であり, また有効性, 効率性については, 概ね有効, 概ね効率的である。

## C - 2 施策・事業の方向性

### 施策の次年度(H19年度)の方向性とその説明

方向性	<b>拡充</b>	維持	縮小
-----	-----------	----	----

[方向性の理由]  
 ・少子高齢化の進展等, 今後, 生涯学習の重要性はますます高まっていくことが予想される。  
 ・文字活字文化振興法の施行により, 県として市町村図書館の支援に力を入れていかなければならない。

[次年度の方向性]  
 ・広域的に, かつ多様なニーズに対応した学習機会を提供するみやぎ県民大学推進事業については, 多くの県民からの要望に応えるためにも, 講座を拡充する必要がある。  
 ・図書館は, 生涯学習を行うための基幹施設であり, 新設等も含め, 市町村図書館への支援については拡充していく。  
 以上, 生涯学習施策については, 拡充の方向で行いたい。

### 主要事業・重点事業の次年度(H19年度)の方向性とその説明

事業番号	種別	事業名	H17決算見込額(千円)	方向性	方向性に関する説明
1	主	みやぎ県民大学推進事業	9,681	<b>拡充</b>	多くの県民から支持されている本事業については, 講座の内容等をこれまで以上に拡充し, 広域的に生涯学習の振興を行っていく。
2	主	市町村図書館支援事業	67,551	<b>拡充</b>	生涯学習の振興には欠かせない市町村図書館の整備(新設を含む)に向け, これまで以上に支援を拡充していく。
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
		合計	77,232		